

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：コーディネーターの役割とコーディネート方法
- 目的：公民館職員が地域の中で「コーディネーター」として何をすべきか、何が期待されているかを学び、その「コーディネート力」を養成する。
- 主催者：福井市教育委員会事務局 生涯学習課
- 開催日時：令和5年5月19日（金）9時30分～12時00分
- 会場：福井市旭公民館
- 参加人数：21名
- 受講対象者：福井市公民館新任館長及び新任主事及び希望者
- 研修内容
  - 講義 コーディネーターの役割とコーディネート方法  
地域コミュニティの中で公民館が果たす役割を考える
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 大坪 直子 氏
  - 内容 ◎公民館が地域の中で果たす役割  
～地域の中で公民館はどんな存在なのか～  
◎地域の中で取り組む活動  
～「学び」を「活動」へつなぐ、活動を通じて「人」と「人」をつなぐ～  
◎公民館を中心にした地域学校協働活動 活動事例  
～学校教育が地域活動と連携できる活動～  
◎共生社会をつくるボランティア活動
  - 演習 ◎ワークショップによる研修  
「コーディネーターの役割体験」

<主な感想>

- 何か新しいことをやらなければと思っていましたが、今やっていることや忘れ去られている地区の宝を深掘りすることなど、視点を変えていくことにより新しい発見・気づきがありました。このようなワークショップを公民館や他団体とやってみたいです。
- 地区での発信方法など今後の課題についてヒントを多くいただいた。

- 各種団体の内部で人間関係などで議論が進まない場面も多々あり、館長に調整を求められるケースがある。公民館であることを踏まえた地域におけるコーディネーターのノウハウも教えてほしかった。
- 高齢者の多い地域で問題が多い中、廃校の活用事例などの紹介があったり相談ができるとよかった。
- 当地区でのボランティアの限界があり、首都圏のボランティアの事例ではピンとこなかった。福井に即した話をしてほしかった。
- 各公民館とも同じ悩みや課題があることが分かった。共有し前進したいと思った。
- 高校生に地域を知り、自発的に地域が活動してもらうことは将来的にも地域との関係をもつきっかけにつながるように思います。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：地域とともにある学校づくり運営研修会

■目的：地域と学校の連携・協働が更に深まることを目指して、地域コーディネーターの役割を学び、地域とともにある学校づくりを進めるための研修の機会とする。

■主催者：佐渡市教育委員会 社会教育課

■開催日時：令和5年5月30日(火) 13時30分～16時30分

■会場：佐渡島開発総合センター 3階 大集会室

■参加人数：49名

■受講対象者：地域コーディネーター、小中学校教職員

■研修内容

講義 子どもを育む「縁」を結ぶ～コーディネーターの役割について～

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 興梠 寛 氏

- 内容
- ◎つながり、つなぎ、分かち合う生活へ
  - ◎人と人、人とコミュニティの「縁」を結ぶ
  - ◎コーディネーターの6つの役割
    - ①たがやす②つなぐ③ひろげる④そだてる⑤しらべる⑥しらせる
  - ◎コーディネーター研修でスキルアップしよう
    - ・コーディネーターの感性を活かす
    - ・ロールプレイで深めるケース研究
    - ・多彩なプログラムメニューを開発する
    - ・他の地域のコーディネーター現場を訪問
  - ◎2つの実践事例から考える
  - ◎ボランティア学習のすすめ
  - ◎無限に広がる公民館の可能性
  - ◎“縁結び人”になろう

<主な感想>

○興梠先生のお話は、地域コーディネーターとして活動する上で大変勉強になりました。

○講演の内容が、実際の活動に基づいた内容でとても勉強になりました。

- 地域コーディネーターの仕事や地域を巻き込んだ学校運営について実践例をまじえてもらいながら説明していただきました。学校で伝達し、地域とうまく連携していきたいです。
- 学校とCSディレクターとの連携だけでなく、行政に働きかけることで労力少なくして活性化する取組を紹介していただき、大変参考になりました。
- ボランティアルーム的なものが学校内に設置され、情報の共有や依頼などがスムーズに行われると良いと思いました。交換ノートもできることの一つだと思いました。年間カレンダーは「見える化」という意味で有効な手段だと感じました。やれることからやっていきたいと思いました。
- 地域連携協働活動がねらい通りに機能すれば、地域と学校の課題を解決できる可能性があると思いました。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：田村市学校支援事業「コーディネーター・指導員等研修会」
- 目的：学校と地域をつなぐコーディネーターの資質の向上を図り、田村市の教育のさらなる向上をめざす。
- 主催者：田村市教育委員会
- 開催日時：令和5年6月8日（木）9時55分～12時15分
- 会場：田村市役所107多目的ホール
- 参加人数：29名
- 受講対象者：田村市学校支援コーディネーター、放課後子ども教室安全管理員、地域連携担当教職員、行政職員
- 研修内容
  - 講義 こどもを育む「縁」を結ぶコーディネーターの役割について
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 興梠 寛 氏
  - 内容
    - ◎つながり、つなぎ、分かち合う世界へ
    - ◎人と人、人とコミュニティの「縁」を結ぶ
    - ◎コーディネーターの6つの役割
      - ①たがやす②つなぐ③ひろげる④そだてる⑤しらべる⑥しらせる
    - ◎コーディネーター研修でスキルアップしよう
      - ・コーディネーターの感性を活かす
      - ・ロールプレイで深めるケース研究
      - ・多彩なプログラムメニューを開発する
      - ・他の地域のコーディネーター現場を訪問
    - ◎2つの実践事例から考える
    - ◎ボランティア学習のすすめ
    - ◎無限に広がる公民館の可能性
    - ◎“縁結び人”になろう
  - 演習 ワークショップによる研修  
「活動をする上での課題等について」
    - 視点1 学校の課題
    - 視点2 地域や子ども・家庭の課題
    - 視点3 ボランティアの課題
    - 視点4 コーディネーターの課題

<主な感想>

- 田舎特有のボランティアもあるのではないかと思った。
- 自分の考えているコーディネーターの在り方を再確認できる時間になった。
- ボランティアについて考える機会になった。
- 大変ためになった。これからも頑張っていきたい。
- 時間が短かった。
- 学校支援について定期的に研修したい。
- 学校と地域の連携は、今後益々必要だと感じた。
- 今回の研修で、コーディネーター・指導員としての役割、支援のやるべき事が少しわかったような気がする。
- 先生の話は面白く、為になった。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：第1回地域学校協働本部研修会
- 目的：学校・家庭・地域連携総合推進事業の推進を図り地域と学校の教育力向上、地域の活性化につなげる
- 主催者：小坂町地域学校協働本部
- 開催日時：令和5年6月9日（金） 10時00分～12時00分
- 会場：小坂町交流センターセパーム 研修室  
(ビデオ会議システムによるリモート講義)
- 参加人数：12名
- 受講対象者：地域学校協働活動推進員、学校支援ボランティア、教育委員会職員等
- 研修内容
  - 講義 地域学校協働活動の計画立案とコーディネートの方法
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 馬場 祐次朗 氏
  - 内容
    - ◎地域と学校の連携・協働の意義
    - ◎地域学校協働活動に関する知識
      - ・地域学校協働活動の必要性
      - ・地域学校協働活動とは
      - ・地域学校協働活動の内容
    - ◎コーディネーターの役割の理解

<主な感想>

- 制度的な理解を深める良い機会となった。
- もっと事例や事業の展開をするときこうすれば進めやすいとか具体的なご提示がもっと欲しかった。
- 講演のネット環境があまり良くなく聞き取りにくい部分があったのは残念。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：地域学校協働活動推進員養成研修・学校と地域の連携推進セミナー

■目的：・地域学校協働活動推進員としての資質向上を目指して、学校と地域の連携・協働の在り方について理解し、学校と地域のコーディネーターに必要な知識・スキルを身につける（地域学校協働活動推進員養成研修）  
・学校と地域が連携・協働した活動に携わる際に必要な知識や技術の習得を目指し地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくりの双方の視点から学ぶ（学校と地域の連携推進セミナー）

■主催者：栃木県総合教育センター 生涯学習部

■開催日時：令和5年6月16日（金）12時30分～15時30分

■会場：栃木県総合教育センター（栃木県宇都宮市瓦谷町1070）

■参加人数：38名

■受講対象者：地域学校協働活動推進員委嘱予定者等各市町から推薦を得た地域コーディネーター等の経験者  
学校と地域の連携活動や地域で子どもを育む活動に携わる方  
県・市町の社会教育関係職員

■研修内容

講義 地域と学校の連携・協働の必要性  
～地域の未来をつくるのは子どもたち、  
子どもたちを地域の力で育てよう！～

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 大坪 直子 氏

内容 ◎地域と学校が連携・協働すること  
地域学校協働活動について  
◎地域学校協働活動の実践として  
◎推進員（コーディネーター）の活動  
推進員・コーディネーターの役割  
ボランティア人材（人財）の活動  
ボランティアをどう集めるか  
社会教育機関としての公民館等の役割と連携の方法  
ボランティアにはどのように協力してもらうか  
◎活動事例

<主な感想>

- ボランティア活動を（コーディネート）する上で、活動そのものだけでなく活動を通じたつながり作りをしていきたい。
- 「放課後あそび隊」の活動事例紹介がとても参考になった。民生委員さんと協働・協力して実行に移したい。
- 中学校のカリキュラムの中に地域が入って活動するアイデアを参考にしてみたい。
- 自分達のできることに少しずつプラスしていけたら…と（今後の活動が）楽しみになった。
- 地域の方をボランティアとして登録しておく仕組みがあるとさらに心強いと思った。
- 振り返りの時間に隣席の方（コーディネーターとしての経験が豊富）と話ができとても参考になった。
- 情報発信やそのスキルの大切さ・必要性を実感した。（自身も活動参加のきっかけは「学校便り」）
- 「地域のこと＝行政の役目」ではなく、地域の人々自らが考え、作るのお話は気づきだった。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：令和5年度 子供の豊かな学び推進研修会
- 目的：地域と学校の連携・協働強化事業及び地域住民等の参画による教育支援活動に関わる行政関係者、コーディネーター、協働活動推進員等の資質向上を図るために研修会を開催することにより、子供たちの豊かな学びを推進し、安全で安心な事業運営に資する。
- 主催者：徳島県教育委員会
- 開催日時：令和5年7月7日(金) 10時00分～12時00分
- 会場：徳島県立総合教育センター 3階 研修室1  
(ビデオ会議システムによるリモート講義)
- 参加人数：23名
- 受講対象者：「放課後子供教室」や「週末等の教育支援」「地域未来塾」「地域学校協働本部」等の関係者(コーディネーター、協働活動支援員、協働活動サポーター、学習支援員等)、及び市町村教育行政関係者
- 研修内容
  - 講義 事業及びプログラムの魅力ある企画・立案について
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 橋本 洋光 氏
  - 内容 ◎地域学校協働活動におけるコーディネーションの在り方  
◎大学生のワークキャンプにおけるコーディネーションの事例から考える  
◎実際のコーディネート(ゼロからのコーディネーション)  
◎プログラム作成のポイント
  - 演習 ワークショップによる研修  
「地域の教育資源を生かした『社会に開かれた教育課程』をつくってみよう」

<主な感想>

- コーディネーターの役割について具体的に分かりかねていたもので、具体例が多く、とてもよかった。

- 地元には沢山の自然、伝統、素材があることに気付いた。にもかかわらず活かせていない。地域とネットワークを密にし、案を提供する事で、子どもたちが触れる機会が増えれば良いと思った。普段から構想を練っていく準備が必要。
- コーディネーターは環境づくりがメインで、子供達が主体的に取りかけられるように心掛けたいと思った。
- 改めて、地域の課題を知ることができた。先生にも分かり易いコメントを頂き参考になった。
- グループワークでは、新しい学びがたくさんあった。コーディネーターとして企画・立案の大切さを学んだ。学校側のニーズを把握すること。背景になるところまでも推測することが大切であること。今までは深く考えず、1つの行事が終われば、それで終了としていた。また、ボランティアさんに対しても同じで「振り返り」ができていなかった。今後は行事が終わった時点で、ボランティアさんとの反省会を行い、ボランティアさんの声を聞き、PDCAサイクルを回したいと思った。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：課題解決チャレンジ事業 地域学校協働活動合同研修会

■目的：各学校の中心となるコーディネーター及び活動協力者の資質向上を図り、それぞれの立場における役割を再確認し、相互の意見交流をする機会とする。

■主催者：茨城県県北生涯学習センター

■開催日時：令和5年7月24日(月)13時30分～15時30分

■会場：茨城県高萩市高萩市役所

■受講対象者：参加人数：31名

■研修内容

講義 コーディネートの方法とコーディネーターの役割について

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 山本 裕一 氏

内容 ◎なぜ、協働しなければならないのか。  
◎認識/目標の共有 何のための共有なのか  
◎「組織学習」という研究分野  
◎組織学習の難しさ  
◎「支援」から「協働へ」  
「シングル・ループ学習」から「ダブル・ループ学習」へ  
◎熟議のススメ  
◎先進事例から学ぶ  
◎協働が「当事者意識」を育てる

演習 ワークショップによる研修  
「どんな子どもに育てたいか？」

<主な感想>

- 講師のわかりやすい話し方がとても良かったです。
- 地域学校協働活動がよくわかりました。
- 熟議をしてみてその大切さがわかりました。
- 地域の方と、改めて話し合いをすることが出来てとても有意義でした。他の地域の活動についても知ることが出来たので、グループワークも良かったと思いました。
- 他の小学区で地域に根差した活動があることがわかり、参考になりました。

- 普段関わることのできないほかの地域の方々と思いを共有することが出来ました。
- 地域と学校の連携について、意見交換をしながら、研修できる良い機会となりました。
- コーディネーターではなく協力する立場で参加しました。始めは場違いと思いましたが、参加してよかったです。
- 今後の教育活動で実践していきたいです。
- 地域の方と協力して、このような研修会が出来ると実態や課題が明確になり、具体的な活動につながっていくのではないかと思います。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：令和5年度 別府市地域学校協働活動推進関係者研修会
- 目的：別府市の地域教育力活性化事業の目的を理解し、地域における関係各所の連携・協働のあり方や手法を知ったり、関係者相互の意見交流を行ったりすることで、今後のよりよい事業推進に繋げる。
- 主催者：別府市教育委員会 社会教育課
- 開催日時：令和5年7月28日(金) 14時30分～16時40分
- 会場：別府市役所5階 大会議室  
(ビデオ会議システムによるリモート講義)
- 参加人数：60人
- 受講対象者：公民館のコーディネーター、統括コーディネーター、各小学校・中学校の学校運営協議会の委員、各学校の地域教育担当者、地域学校協働本部に関わる役割を担っている方、地域学校協働活動推進員、ボランティア活動に協力いただいている方等
- 研修内容
  - 講義 地域と学校の連携・協働でみんなにとって良いことが起きていますか?～地域で子どもたちを育てることで、どんな地域をつくりますか～
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 大坪 直子 氏
  - 内容 ◎地域と学校が連携・協働すること  
地域学校協働活動について  
◎地域学校協働活動の実践として  
◎推進員(コーディネーター)の活動  
コーディネーターの役割  
ボランティア人材(人財)の活動  
ボランティアをどう集めるか  
社会教育機関としての公民館等の役割と連携の方法  
ボランティアにはどのように協力してもらうか  
子どもも大人も学び合い育ち合う  
◎活動事例

演習 ワークショップによる研修  
「さらなる連携・協働はできるのか？」

<主な感想>

- 実りある研修に参加させて頂き本当に勉強になりました！この研修でより良い地区作り、学校作りに（活動が）なっていくことを願っています。やはり、住まれている街、地区の住民、一人一人がまず、あいさつ、声掛けで場作りを築いていくことを願っています。
- 子ども同士や親同士のつながり、地域の行事がたくさんあった昭和の頃にもどれないかと思いました。学校の職員は地域に出かける、地域の方は学校へ出かけるという互いの交流が大事だと思いました。
- このような話し合いをしなければならぬ状況こそ問題で、保護者、地域、学校が一体となって取り組むべき。自分にできること、学校、地域を巻き込んでやりたいです。
- 公民館コーディネーターのこと、初めて知りました。広報活動を広めることが大切。
- ワールドカフェで楽しく話しができました。色々な意見が出ましたが、コロナ以前のように開かれた学校運営をお願いしたいと思います。
- 地域と学校をつなぐ、日常的な取組の必要性を感じました。
- 研修1：地域と小学校連携の運動会がなくなるなど、今日の話と逆の行動も現れている。子ども会活動の活性化が、近道のように感じた。研修2：いろいろな活動のあり方を知った。CS ルームを活用した地域と学校の交流は今後の方向ではないかと思った。
- ボランティアの意義がわかりました。学校と地区の結びつきが大事と改めてわかりました。大人がもっとおせっかいになることが必要？先生と若い親の負担を軽減したい。
- いろいろな立場からの話をきかせていただき、参考になりました。地域も学校も子どもたち、地域を守りたい、育みたいという思いは一緒なので、まずは一緒に何かをする（できれば楽しい活動）ところから始めていければ、と思いました。
- 地域学校の連携、古くて、新しいテーマだと思います。「人」「金」がポイントだと思います。学校での地域教育担当はとても大切な分掌だとも思います。
- Zoomの音声が、悪すぎてとても聞きとりづらい。初対面のメンバーが多い中でのワールドカフェ形式の手法は逆に効果がうすく意見がまとまりにくいので、不適當だと感じた。

○活動するなかで、感じていたことや思っていたことが、具体的に文言化されていたので、理解しやすかったです。地域学校協働活動において、SDG's も関係してくることがわかり目から鱗でした。「地域の宝を知る」という言葉は、とても素敵です。そこを上手に、コーディネートできればと思います。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：令和5年度第1回地域学校協働活動推進のためのコーディネーター養成講座

■目的：学校と連携・協働して地域を創生する「地域学校協働活動」の中核を担う地域学校協働活動推進のためのコーディネーターの育成を図ることをねらいとする。

■主催者：三重県教育委員会

■開催日時：令和5年8月4日(金) 13時00分～16時30分

■会場：三重県教育文化会館 5階 大会議室

■参加人数：64人

■受講対象者：地域学校協働本部、放課後子ども教室のコーディネーター及び関係者、放課後子ども総合プランの関係者、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の関係者、「子ども支援ネットワークづくり」推進教員、地域連携担当教職員等コーディネーター的役割を担う教職員、社会教育委員、社会教育主事、公民館職員

■研修内容

講義 情報の提供・発信に関する知識・技術/コーディネート技法

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 馬場 祐次郎 氏

内容 ◎地域におけるコーディネーター(地域学校協働活動推進員・支援員等)は、教育(社会教育)に携わる職  
◎そもそも地域学校協働活動とは  
◎地域学校協働活動の必要性  
◎地域と学校・家庭の連携を進める意義  
◎コーディネーターの育成。確保がカギ  
◎コーディネーターの役割と求められる資質・能力  
◎情報を収集・提供・発信する際の留意点  
◎地域の教育資源の発掘と有効活用  
◎収集・提供・発信する情報の種類  
◎地域情報を活用したコーディネート事例

演習 ワークショップによる研修  
「コーディネートの実践を学ぶ」

<主な感想等>

- コーディネーターの役割がよくわからず、名前のみの方が多い。自分がある団体に正しく伝えたいと思います。また、自分自身もつなぐことに力を注ぎたいです。
- 自分自身が当事者意識をもって、情報収集・発信に努めていきたいと思いました。ウェルビーイングの実現に向けて、地域と学校が連携・協働していくことが大切で、そのためにコーディネーターの果たす役割は大きいと思いました。
- 初めての参加でしたが、充実した時間でした。自分一人の満足ではなく、子どもたちに向き合っ、子どもたちの主体性を引き出していけるように、活動できたらと思いました。「縁」づくりも素敵な言葉です。言葉どおり進めていけたらと思います。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：令和5年度 第4回奈良市コーディネーター研修（キャリア教育）

■目的：コーディネーターを始めとした地域人材が学校と共にキャリア教育を推進するためにどのように連携をしていけばいいのか、自らの役割を自覚することで、キャリア教育への理解を促進することを目的とする。また、地域と学校園が「めざす子ども像」に向かって実践している活動を「キャリア教育の視点でとらえ直す」ことを意識することで、さらに充実した地域学校連携活動につなげる。

■主催者：奈良市教育委員会事務局 地域教育課

■開催日時：令和5年8月24日（木）9時30分～11時30分

■会場：奈良市役所 中央棟6階 正庁

■参加人数：24名

■受講対象者：コーディネーター・地域学校連携関係者・学校関係者・生涯学習財団職員

■研修内容

講義 キャリア教育推進のためのコーディネーターの役割について  
「コーディネートの方法とコーディネーターの役割について」

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 橋本 洋光 氏

内容 ◎平成27年中教審答申～「支援」から「連携・協働」へ～  
◎子供たちの社会環境の変化（予測困難な社会）と「社会総がかりの対応」  
◎連携・協働の目的＝子供たちの「生きる力」  
◎連携・協働の中教審答申の流れ  
「開かれた学校づくり」から「社会に開かれた教育課程」へ  
◎キャリア教育とは（平成23年1月中教審答申）  
◎コーディネーターの役割  
◎社会に開かれた教育課程の一つ＝協働的な学び（地域学校協働活動）  
◎「生きる力」とボランティア活動  
◎奈良市のキャリア教育の特性  
◎学校を核とした地域づくり  
◎コミュニティスクールと地域学校協働活動の連携  
◎連携・協働で育つ子供像

## 演習 ワークショップによる研修

### <主な感想>

- コーディネーターについて知識がないので勉強になった。
- 協議会や学校だけではなく、子どもたち、地域の方（保護者や学生や）が主体的に参画できる活動を組立てることの必要性をあらためて感じました。ニーズの把握やマッチング、学校の年間行事予定や地域の方々の日程のすり合わせなどハードルがいろいろありますが、理想に近づければいいなあと思います。
- 企画段階でもっと子どもたちも参画できる機会を増やしていきたい。今後の事業計画を立てるときの考察材料にしたい。
- 子どもを巻き込み、両親、老人が集うように活動して行動していきたい。
- キャリア教育とボランティア活動との密接な関係について、とても腑に落ちた。公民館職との役割にもかかわる内容だと思い、大変勉強になったので参考にしたい。
- 子どもたちを主体とするのは良いと思う。うちの地域は子どもと大人の距離が近いのでうまくつなげていければと思います。
- 子どもが主体的に活動できる流れを一から見直すきっかけとなった。
- 漠然とボランティアに参加していましたが、今後、相手の立場にたって達成感ややりがいのある活動なんだと知ってもらえるように働きかけていきたい。子どもたちを企画まで巻き込むためのきっかけづくり、各団体・学校とのつながりを大事にしたいと思いました。
- ボランティア・コーディネーターの立場等をあらためて考えさせられました。今後の活動にいかしたいと思います。
- 沢山の参考になるアイデアをもらったので、できる分を参考にしたいです。子どもをいかに巻き込むか、企画から参画してもらう方法を今後考えていきたいと思います。
- 体験活動とボランティア活動の違いがよくわかった。他地域の活動と今日の話を参考にして、今後の自分の地域の活動の参考にしたい。
- 放課後子ども教室に関わっていく中で、子どもたちがどのように自主的に参加してくれるようになるか（活動に主体的に参加してくれるか）を考え、行動して行こうと思います。
- ボランティアについての話を詳しく聞くことができ、自分が活動に参加する意義を改めて考えることができた。自分自身も勉強していきたい。

- ボランティアとして、大学生も期待できるとのお話もありましたが、校区内には県立大学附属高校があり、高校生が放課後こども教室のラジオ体操に来てくれたり、地域のまつり、高齢者サロン、未就園児のひろば等に参加してくれます。中には、小学校の卒業生もいてくれました。子どもたちが身近な高校生ボランティアの姿をみて「自分たちも！」とってくれるたら。県立大付属高校も地域の財産ですので今後も続けられたら。
- 活動をまだ始めただけで、グループの人たちの活動内容を聞かせていただきパワーをもらいました。富雄南中学校区では、まつりや防災など子どもたちがボランティアとして活動している姿を見ていましたが、年間活動計画の中にも、子どもたちの意見（アンケート等を通して）を組み入れられたらいいなと思いました。
- ボランティアが意図されていることが自分の認識以上の知識学びました。
- 他者へ自分を投げ入れる勇気からボランティアが始まり、生きる力につながるというお話がとても良かった。
- 活動するにあたって、子どもたちを参画させるという事を考え、今後に生かしていきたい。ボランティア活動の概念があらためて学ぶことができた。地域のボランティアを集めることが難しいが、地域人材の発掘も含めて、学生たちの参加をうながせる事を考え、地域の情報交換の場に参加していこうと思う。
- 子どもたちのボランティア活動をもっと進めていきたいと思った。
- 他地域との交流を通して自身がアップデートしていくことが大切だなと感じました。
- 地域を巻き込んだ各種団体とのつきあいを深く持つて行くことが、今後の活動につながるのでは。
- 子どもを主体とする場合、大人が時間がとれないかもしれないのが難しいです。
- 小中学校の連携について、学校、地域それぞれの状況についての研修があればいいなと思いました。
- 先生のお話は2回シリーズでもっとゆっくりお聞きしたかったです。
- ボランティアを募集するための広報紙、チラシ（効果的な）の作り方の研修があれば参加したい。
- もう少し自分に知識があればと思うばかりです。時間を調整し、参加していきたいと思いました。

○本日のような研修内容はとてもよかったです。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：令和5年度つがる市地域学校協働活動研修会

■目的：地域学校協働活動が始動して3年目に入り、新しくコーディネーターとして活動する方もいるため、改めて地域学校協働活動の意義やコーディネーターに求められる役割を認識し、今後の活動にいかしてもらおうことを目的とする。

■主催者：つがる市教育委員会教育部社会教育スポーツ課

■開催日時：令和5年9月20日(水) 14時30分～16時00分

■会場：つがる市生涯学習交流センター「松の館」2階視聴覚室  
(ビデオ会議システムによるリモート講義)

■参加人数：22名

■受講対象者：つがる市地域学校協働活動推進員、  
つがる市立小・中学校担当職員、地域住民

■研修内容

講義 コーディネーターと学校教職員によるキャリア教育に関する具体的支援の共有について

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 興梠 寛 氏

内容 地域学校協働活動とキャリア教育コーディネート  
～子どもたちを育む「縁」を結ぶ～

- ◎キャリア教育が目指すもの
- ◎人とのつながり「社会をつくる力」を育む  
社会力の衰退への危機  
生きることの意味や目的を発見する学びを！
- ◎コーディネーターは地域の‘共育プランナー’である  
人と人、人とコミュニティの「縁」を結ぶ  
コーディネーターの6つの役割  
2つの取組事例を考える
- ◎子どもたちは「必要とされたい」と心から願っている  
ユネスコが提案する21世紀の学び  
ボランティア活動の4つの理念  
サービスラーニングの要素  
ボランティア学習のすすめ
- ◎協働するためには「マッチング拠点」が必要だ

## 無限に広がる公民館の可能性

### <主な感想>

- やまたろう本部のHPを見ました。コミュニティハウスの活動内容は中学生向けのものがあまりないようでした。コミュニティカレンダーは更新されていましたが、HPの内容が10年ぐらい前のままとなっています。特に関心のあったキャリア教育についても2016年から更新されていません。現在の最新の活動について知りたいと思いました。
- ボランティア活動を通して社会参加することが社会の役に立っていることがわかり大変有意義な研修でした。学校の先生方と一緒に興梠先生の講義を拝聴したことで学校との連携がやりやすいのではと思いました。
- コーディネーターとボランティアのつながりの方法などは、市をあげて行うことの必要性が大きいと思いました。
- 非常にまとまった講演でした。講演内容に「ボランティアのハードルは低く、教育への志しは高く」とありましたが、学校協働活動推進員のレベルは高くあがった感じがしました。
- 子どもが「役に立った」と思えるような活動、声掛けに努めたい。
- 横浜市の東山田中学校区コミュニティスクール「やまたろう本部」の取り組みがとても参考になりました。具体的なことが資料に記載されていたので、もっと勉強して取り入れていきたいと思いました。
- 理念のようなもの（人間の本質のようなもの）を考えさせられました。特に「どんな人になりたいか」の部分では、自己効力感と関連して、子どもたちと接する際に気をつけたいと考えました。このことが、キャリア教育にもつながっていると知り、勉強になりました。
- 良いコーディネーションのための方法が具体的に理解することができました。大事なキーワードとして「たがやす」「つなぐ」「ひろげる」「育てる」「しらべる」「しらせる」これから、これを大切にして学校協働活動をより充実していこうと改めて思いました。
- 横浜でのボランティアハンドブックの中の学校支援ボランティア〇×クイズ見てみたいです。 ロールプレイについて、具体的に良くわからなかったです。
- 推進員の今後の取り組みの参考となるものであった。推進員一人で取り組んでいくというより、やはり、学校運営協議会において、関係者の共通理解が図られることが大切であり、それをもとに活動を推進していくことが大切であろうと感じた。学校と地域が目的を共有することが大切である。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：学校運営協議会委員・地域学校協働活動推進員（学校コーディネーター）合同研修会

■目的：相互の役割・活動について理解を深め、学校運営の改善及び学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進につなげる。

■主催者：八王子市教育委員会

■開催日時：令和5年12月10日（日）10時～12時

■会場：八王子市教育センター 3階 大会議室

■参加人数：126名

■受講対象者：学校運営協議会委員・地域学校協働活動推進員・学校管理職

■研修内容

講義 学校運営協議会と地域学校協働活動の両輪体制について

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 山本 裕一 氏

内容 ◎コミュニティースクールの現状と組織の意義  
・学校の教育目標が社会と共有されていなければ、連携・協働も生まれない  
・何のために目標を共有するのか  
・当事者意識は育っているのか  
◎学校運営協議会委員と地域学校協働活動推進員のあるべき姿について  
・「社会に開かれた教育課程」の実現  
（コミュニティー・スクールの有効性）  
・私たちは“学習する組織”（子供の学びを考える大人の集団）であるということ  
・学習する組織の難しさ  
アンラーニング、メンタル・モデル、成功の罨  
シングル・ループ学習／ダブル・ループ学習

演習 ワークショップによる研修

<主な感想>

- 例題を提供され、その問題点を話し合う事がとても良かったです。
- 学校運営協議会の役割、地域学校協働活動推進員の役割が良く分かりました。
- コミュニティー・スクールの必要性を改めて認識できました。
- アンラーニング、メンタル・モデル等々ふと立ち止まって考えを再確認する必要性を実感しました。
- 学校・地域・子どもたちの為に、これからも「子どもファースト」で「コミュニケーション」を大切にして、学校運営協議会をより充実した組織にしていきます。「子どもの学び」を考える大人の集団でありたいと心から思いました。
- 学校運営協議会の委員として、地域学校協働活動推進員として、何をしていったらいいのか良く分かる研修会でした。
- ダブル・ループできるような地域学校協働活動推進員になることが、子どもや家庭や学校を支える根本だと改めて感じました。
- 山本先生の進行がちょうど良い時間配分で進められ、講義や発表が入り、休憩が無くてもあっという間の二時間でした。
- 地域学校協働活動推進員は学校運営協議会で出た課題を地域におろして解決策を考える役目があることも分かったので、地域と学校を繋げられるよう務めていきたいと思います。
- 大変ためになる講義と熱いメンバーとのグループワークで楽しく学習させていただきました。

令和5年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動推進者研修会
- 目的：全国の様々な事例をもとに、コミュニティ・スクールの運営と協働活動の効果的なコーディネート的手法について具体的に理解する。
- 主催者：安城市教育委員会生涯学習課
- 開催日時：令和6年2月27日(火) 14時00分～16時00分
- 会場：へきしんギャラクシープラザ(安城市文化センター 1階 講座室)
- 参加人数：36名
- 受講対象者：市内公立小・中学校教職員
- 研修内容
  - 講義 「CS運営や協働活動の効果的な展開の手法」
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 橋本 洋光 氏
  - 内容
    - ◎平成27年中教審答申～「支援」から「連携・協働」へ～
    - ◎子供たちの社会環境の変化(予測困難な社会)と「社会総がかりの対応」
    - ◎連携・協働の目的=私たちのミッションは何か
    - ◎連携・協働の中教審答申の流れ  
「開かれた学校づくり」から「社会に開かれた教育課程」へ
    - ◎コーディネーターの役割
    - ◎地域連携担当教職員のしごと  
教職員に対する研修会
    - ◎推進員との連携・協働の実際  
近い将来の姿
    - ◎地域教育資源の活用  
人材：地域ボランティア
    - ◎地域ボランティアをどう集めるか
    - ◎推進員・地域ボランティアとの研修会(埼玉県狭山市学校支援ボランティア研修会から)
    - ◎先生方を支えるのは誰か
    - ◎「子供の参画のはしご」
    - ◎社会に開かれた教育課程の一つ=協働的な学び(今後の方向性)
    - ◎地域資源
    - ◎地域資源を活用した学習プログラム(事例)

- ◎最後に：ボランティア活動とは  
ボランティア活動・ボランティアを理解する（子供も大人も）
- ◎学校を核とした地域づくり
- ◎その課題解決策
- ◎連携・協働で育つ子供像

#### グループ協議

6グループごとに、地域連携担当教職員のしごとを中心に、コーディネートする際の留意点など意見交換を実施

#### 質疑応答

#### <主な感想>

- 教職員の意識を変えるためには、事例を作りそれを広めていくことが必要である。
- ボランティアを募るためには、まずは地域の方々に学校に来ていただき取組の様子を参観してもらうのが良いと感じた。
- コミュニティ・スクールの取組は、言葉だけではイメージしづらい。実際に話し合ったり、活動したりする場面を映像で確認できれば、さらに理解が深まると思います。
- 地域連携担当教職員を学校の校務分掌に位置付けていくことが必要だと感じた。
- 地域の人が学校に関わり、学校をより良くしていけば、地域自体も活性化していくことが分かった。
- 様々な事例を知ることができたのでイメージ豊かに学ぶことができました。その際、地域、学校、保護者、子供たちのニーズをきちんと把握し、職員とも共有しながら進めることが大切であると感じました。
- 地域連携を進めるために必要な適性の理解が深まりました。オープンスクールの発想が良いと思いました。